



公開講座 レポート①

様々な子どもといかに向き合うか…

●ともいき（共生）スキルアップ講座 ～教育カウンセリング入門～

10月19日（土）筑紫女学園大学において、「ともいき（共生）スキルアップ講座～教育カウンセリング入門～」を開催しました。講師は人間科学部人間科学科の益満孝一教授、酒井均教授です。

今回の講座では、前半は益満先生による「育てるカウンセリング」、後半は酒井先生による「発達障がいの子どもの理解と支援」についてお話いただきました。

前半の「育てるカウンセリング」では、現代の子どもは人と関わることが苦手、コミュニケーション不足であることを学びました。その後、教育カウンセリ

ングの主要な方法として2人1組で話す人と聞く人に分かれ『傾聴』を行う「構成的グループエンカウンター方式」で参加者の皆さんで実践しました。今日初めて会った隣の方とも話が盛り上がり皆さん楽しそうに会話をしていました。「傾聴」の大事さを改めて体験して頂けたようです。

後半の「発達障がいの子どもの理解と支援」では、自閉症、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、アスペルガー障がいについて学んでいきました。発達障がいの原因は脳の機能不全とわかっていますが、どこがどのようにうまく動かないのかははっきりして



いません。障がいの特徴や行動観察、正しい行動をするためにはどのような力が必要かを考え、問題行動の原因の究明をし、原因からそれにあつた対応方法を考えることが大切だということを知りました。（大学／人間科学部人間科学科人間形成専攻幼児保育コース2年 樋口禎子さん）

公開講座 レポート②

仏教の奥深さを改めて知った90分

●第20回 仏教研究室公開講義① 『仏教入門～釈尊の教え～』

11月2日（土）筑紫女学園高等学校紫苑館において「第20回仏教研究室公開講義『仏教入門～釈尊の教え～』」を開催しました。今回は「縁起という考え方」をテーマに、文学部英語学科の小林久泰准教授に講演いただきました。

「縁起」とは、もともと「あるものに依存してあるものが生じること」を意味します。それは「〇〇があれば△△がある」という肯定的な関係だけではなく「〇〇がなければ△△がない」という否定的な関係を含めた、広い意味での「因果関係」を意味しています。また、「縁

起」という教えは、十二支縁起（苦しみが起こるプロセスをより詳細に説明したもの）に代表されるように、苦しみの根本的な原因である「無知」をなくするためにはどうすればよいかを我々凡人に示すために、釈尊によって整理され、説かれたものです。この「縁起」の教えは、仏教の発展とともに、あらゆるものはすべて単独では存在せず、何かしらの関係性を持って存在しているという仏教の独自の世界観を構築していきました。またその結果、万物をすべて絶対的ではなく相対的な存在と捉える「空（くう）」の思想が形成されました。



今回の講義では、仏教の奥深さ、面白さに吸い込まれるような感じがして、参加者の皆さんもとても熱心に聞き入っていました。（大学／人間科学部人間科学科人間形成専攻幼児保育コース2年 樋口禎子さん）

Professors' Works ～先生方の著作紹介～

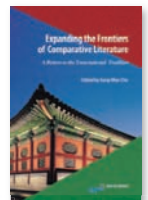
『Expanding the Frontiers of Comparative Literature』

(A Return to the Transnational Tradition, edited by Sung-Won Cho)

●間瀬玲子（大学／英語メディア学科）著

19世紀の作家ジェラルド・ド・ネルヴァルが「東方紀行」を執筆する際に参考にした「ヒュペネトマキア・ポリフィリ」の原書（1499年）とフランス語訳（1546年）を比較検討した論文が本書に収録された。

Chung-Ang University Press（韓国／ソウル）刊
25,000ウォン
2013年7月31日発行



『長崎・東西文化交渉史の舞台 ポルトガル時代／オランダ時代』※1

『長崎・東西文化交渉史の舞台 明・清時代の長崎／支配の構図と文化の諸相』※2

●若木太一編、高山百合子（短期大学部／現代教養学科）他 共著

江戸時代国際交流の中心地であった長崎に着目し、そこで展開した歴史・文化の諸相を描く。

勉誠出版 刊
※1 4,200円 ※2 6,300円
2013年9月20日発行

